湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学
医療薬学部
定本　清美
2024 年 6 月 5 日

湘南医療大学ティーチング・ポートフォリオ

大学名　　湘南医療大学
所属　　医療薬学科
名前　　定本清美
作成日　　2024 年 6 月 5 日

1.　教育の責任

私は今までに医学部、薬学部、看護学部で教育にあたってきた経験を活かし、現在社会で求められている薬剤師の使命を踏まえて、薬ばかりでなく臨床の背景を理解した上で適切な薬物治療を遂行できる薬剤師の育成教育を目指して、本学での薬学部教育活動を行っている。本学は定員が 130 人であり、教員が学生と顔が見える教育にあたれることや、学内他学部である保健医療学部の中に看護学科とリハビリテーション学科を併設していることから、薬剤師の仕事ばかりでなく他の医療職の特色を知る機会や、共に学び活動する機会に恵まれている。また、低学年から高学年にわたり、チーム医療教育の実践を特色としている。薬剤師として使命感を持って薬の専門知識を学ぶ中で、広い視点に立って活躍できる薬剤師の育成が教育の中に生かされている。1 年次から症候論など体の仕組みについて学ぶ科目も取り入れ、臨床的能力が高く、将来様々な場所で活躍できる薬剤師育成に、使命感を持って教育にあたっている。

日本リウマチ学会評議員
日本包装学会理事
日本包装学会学会誌編集委員　副委員長
東邦大学薬学部教授　2011 年まで
東邦大学医学部リウマチ科、医学教育　非常勤講師　2011 年まで
横浜薬科大学薬学部教授、医療薬学科学科長　2011 年～2022 年まで
科学研究費委員会専門委員 2014～2016 まで
日本プライマリ・ケア学会理事 2011 年まで
日本プライマリ・ケア学会誌編集委員 2011 年まで
日本プライマリ・ケア学会英文誌編集委員 2011 年まで
千葉県薬事審議会委員　2012 年まで
千葉県薬剤師会研修委員 2012 年まで
東海大学医学部非常勤教授 2013 年～2020 年まで
東海大学大磯病院内科学会研修医指導 2013 年 9 月～2020 年まで

（科目）
症候学　薬学部 1 年　必須
早期体験学習　薬学部 1 年　　必須

テュートリアル演習　薬学部 1 年　必須
薬物治療Ⅱ　薬学部 3 年　必須
内科学Ⅰ　保健医療学部　リハビリテーション学科　2 年　必須
病態学　保健医療学部　看護学科　2 年　必須
大学院　保健医療学部　1 年　必須
保健医療学部　感染制御専門看護師　専攻科 1 年
（教育活動）
副学部長
FD 委員会委員長
3 学年テューター長

大学産業医

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

薬剤師は薬の専門家として、医療の中で治療の中心となる「薬物治療」における薬を広く理解するばかりでなく、その使用料や適切な適応方法、副作用の発見などについて重要な役割を持ってきた。さらに、研究、医療行政、医薬品の管理など薬に関わる様々な仕事においても社会において大きな貢献をしてきた。しかし、社会の一般人から薬剤師の広い能力を十分理解されていない。薬剤師教育が 6 年制になってからは、医療薬学の担い手として、薬という物についての教育から、治療や検査に薬を生かしていくという能力が求められてきた。それによって、薬剤師は疾患を学び広く理解した上で、医療の中で薬物治療に関われる大きな転換期となった。そしてそれは社会に貢献する職種として理解される機会にもなってきた。私は医師として診療にあたる際に、予てから薬剤師の能力を生かし職域を広げていくことができれば、薬剤師の 6 年間の基礎薬学から疾患、予防医学、法律などの知識が生かせると感じてきた。また、今まで以上に薬剤師がやりがいある仕事として発展していくときであると考え、教育の中でその理念ややりがいを伝えながら学生と関わっている。特に、湘南医療大学では少ない定員で学生と教員の距離が近く、医学部と同様に顔の見える教育を 6 年間継続し、人としても成長できるように支援する所存です。

2) 理念をもつに至った背景

私は医師として長く内科、特にリウマチ膠原病領域の診療に携わってきたが、医学部卒業以前に薬学部で学び、薬剤師の資格を取っている。4 年制薬学部で学んだ頃は、薬の性質や薬理作用、生薬や衛生科学などについて広く教えていただいた記憶がある。内容は興味深いものも多かったが、その中で薬と人の関りや、疾患の知識、薬物治療の実

際について学ぶことはほとんどなかった。たぶん、多くの 4 年制を卒業した薬剤師さんは卒業後の仕事の中で、他の医療職の仕事と薬剤師の関係、薬物治療の実際やチーム医療などについて学びながら成長していった結果、様々な役割を果たせるようになったと考えられる。薬学教育が 6 年制に変わったことから、薬学部においても「疾患を理解して薬物治療に専門家として関わる」ことが求められルようになり、新たな教育がスタートした。そして、出身校の薬学部から依頼を受けたことから、私が薬学部において自分が関わってきた疾患や医療の内容を、薬学生に教えることになった。従って、私が以前薬学部で学んでこれなかった「疾患と薬物治療」という内容で病態や検査、そしてそれに対する薬物治療についての教育をすることで、今まで薬学部で実現できていなかった「疾患や医療の分野の知識を持った薬剤師」の養成がきると感じた。そして実際に教育をしていくと、優秀な薬剤師を大学病院や製薬会社などに送りこむことができ、活躍している姿をみることができた。自分が抱いた薬剤師に対する教育、疾患の知識を持った薬剤師の養成の重要性が確信できた。

3. 教育の方法・戦略

6 年間の薬剤師教育が低学年から高学年まで発展的に継続できるように、学生達に医療現場での薬物治療の実際と、患者さんや疾患の知識などを機会あるごとに伝えていくことで、薬剤師としての学びの楽しさ、職業としての使命感などを感じながら学習を継続できることを目指している。さらに、疾患は個人個人の違いが多く、薬物治療は様々な工夫が必要であること、疾患を抱えた人やその家族との関わりについて注意が必要なことなど、教科書では表現しきれない実際の医療について、各分野の疾患症例などを通して伝えていくことで、医療に携わる人としての準備教育も目指している。

・教授方法

薬学部にふさわしい教科書の選択をし、学生が予習、復習する際に、該当分野がわかりやすいようにした。また、理解を深めるためには画像やグラフなどを他の資料としてパワーポイントで説明すると共に配布するようにした。さらに、頻度の高い疾患や重要性が高い疾患、国家試験にも頻出するような分野においては特徴の解説や、実際の症例問題などを解説することで、学生の興味や理解が深まるように工夫している。

・授業の工夫

授業は講義形式を中心とするが、必要に応じて学生への問題提起、小グループでの討論、質疑応答形式などを取り入れている。90 分の時間を有効に使うとともに、学生の集中できる時間を考えて、組み合わせて授業を構成している。まとめの時期には、短い質問について紙面で回答してもらうことも取り入れ、学生の熱意や理解度も評価するようにしている。

・開発した教材としては、教科書として医師が病態や検査値を執筆し、薬の解説を薬剤師が担当した教科書を共同執筆した。この教材はそれぞれの分野の解説の最後に代表的な症例を示すことで、疾患やその治療についての理解が深まり、試験対策としても役立つことが評価された。

・授業以外の諸活動としては、テューター活動として学習相談、過去の問題を通した基礎分野の復習、今後の病態の学習と基礎分野とのつながりの解説などを行っている。成績不振者については今後も個別に工夫が必要であると考えられるため、さらに担当のテューターと健闘をしていく予定である。また、大学の公開講座や産業医の活動など自分に可能なことについては随時協力している。

・自己研鑽としては、自分が担当する分野の病態や薬物治療についての最近の考え方など、変化がある場合について随時変更や追加をしていくことや、学生が基礎分野でどの程度を学んでいるかについて確認し、学習がそれにつながるように工夫をしていくことを考えている。また、学生の 6 年間の大学生活が有意義に過ごせるような支援、大学内外の交流、進路指導などにも可能な事は支援していく所存である。
他大学や企業との情報交換や共同研究に取り組んでいる。

・薬学部における卒業研究指導においては、長期にわたり特定の学生指導にあたることから、学修、研究やそれに伴う学会活動、社会参加など在学中に様々な体験ができるように指導を進めていく方針である。それによって将来社会で広く活躍できる薬剤師養成を目指いしている。

4. 学習成果

1）学生からの授業評価や質問で、内科のアレルギーや免疫関連疾患に興味をもってもらえたことが、よかった。
2）チーム医療実習において、他学部の学生においても薬や薬物治療の重要性やその知識の必要性が理解されたことから、今後の薬学部の参加することに意義を感じた。
3）テューター活動で学生と忌憚ない交流をしたことで、個々の学生が持っている希望の違いや、必要な支援について考える機会となった。
4）テューター活動時の基礎分野の学習において、低学年におけるミニテストによる知識のチェックが復習に役立つことを学生から評価された。
5）授業以外の時間に個別に学生が勉強方法や進路について相談しに来ることがあり、個人の成績と希望を踏まえてアドバイスを行い、感謝された。
6）両年始た学生に対して学修、生活について継続して指導をすることによって学生の

モチベーション維持と家族の理解につなげることができた。

5. 改善のための努力

1） 個々の学生に対して必要な支援が異なるため、個別の相談や有効な方法をさらに工夫する必要がある。

2）大学内で学習ばかりでなく、クラブ活動や交流ができる場を望む声が多いことから、可能な支援をしていく。

3）薬剤師国家試験の内容が高度化する中での、教育方法について科目別及び連携して対策を検討する。

4）学生の講義や実習がより効率的に運営できるように、学年ごとに有効な計画を考え、実行していく。

5）学生配布資料については、文字の大きさなどを考慮して印刷するように改善っしていく。

6. 今後の目標

・短期目標

薬学部は設立からまだ 3 年であり、学部として特色や教育内容について全国に周知する努力が必要である。各科目において適切な教員が担当し教育に当たっていることや、少人数で顔の見える教育が可能であること、神奈川県で比較的アクセスがいい場所に立地していることなど利点となることを多くの受験生や進路指導者に理解していただき、より良い薬学教育が可能な大学として発展させていくことである。また、奨学金や大学施設を整備して、魅力ある学びの環境を整えることで、薬学部を目指す学生に選ばれる大学となることを望んでいる。

・長期目標

医療薬学の知識や実習を十分に教育できる環境を整え、医療の中で求められる薬剤師の教育を実現する。そのことで、学生や社会から求められる大学に発展させること。

【添付資料】

教科書作成、参考著書執筆

・Principal Pharmacotherapy 改訂 1～3まで

定本清美:Principal Pharamacothrrapy: 改訂 3 版 分担:骨関節カルシウム代謝疾患疾患総論、1012-1015 、アレルギー・免疫疾患 関節リウマチ、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎 1066-1091 亀井淳三、斎藤英鳳監修ネオメディカル 2022.3.30 ISBN 978-4-904634-37-0

・「使いやすさの定量評価と製品設計への落としこみ方」 第 1 章第1節医薬品の使用性を評価する対象や項目 p551―564
定本清美:技術情報協会 ISBN978－4－86104－939－2 2023, 3, 31

教育、研究支援講演

・Kiyomi Sadamoto Issue of pharamacy education move towards practical in Japan The 5th Forum (Hong Kong) on the Development ofChinese Medicine,The 11th Annual Meeting of Global University Network of Traditional Medicine 29-30.6.2019 Hong Kong

・Kiyomi Sadamoto Education of pharmacist and their contribution in medical activities -Efectiveness of Kampo speciality The second Medical education and helth education study with biology (第二回中国医学教育大会医微生物関連健康教育学学術大会第 11 回中日国際環境と健康学術シンポジウム)20-22 9 2019 Shenyang China

・Kiyomi Sadamoto Developing CRSF packages considering solution for both children and the elderly International seminar on innovation packaging for pharmaceutical and Herbal Products 29 July 2020 Bangkok

・定本清美 医薬品の提供における危機管理とChild Resistance and Senior Friendly (CRSF)包装の開発 国際医薬品開発展 (最新技術・製品)2021 東京ビックサイト 2021. 4.17

・Kiyomi Sadamoto, Kiyoshi Kubota: Proposal of medical packaging -considering accessible drug packages for the elderly, handy capped and children C PhI South East Asia Pharmacy 2021.12.7(remote)

・Kiyomi Sadamoto, Shou Nakadate, Yasuhiro Tonoyama, Hajime Kagaya, Kazumi Sano,TomokoTerajima, Haruka Sudo, Megumi Wakayama, TsutomuSuzuki, Yuji Morio, Yoshitsugu Omori, Akira Teramoto : Team medical care education in Shonan University of Medical Sciences in Japan

-Team medical care education which promotes health and appropriate patient care.12th China-Japan International Symposium for Environment and Health 3th Health and Education conference 第 12 回中日国際環境と健康学術シンポジウム 及び第 3 回微生物生体と健康教育学術年会

China Shenyang 中国瀋陽 19.Novwmber 2022

・Kiyomi Sadamoto, Hiroyuki Ura, Kiyoshi Kubota Feasibility of CRSF(child Resistance &Senior Frendly)drug packages and its potential effectiveness. 9th International Conference on Physical Health, Public Health & Health Management July15-16 2023 London UK

Kiyomi Sadamoto, Hiroyuki Ura, Kiyoshi Kubota Feasibility of CRSF (Child Resistance & Senior Frendly) drug packages and its needs FUTURE OF BIOLOGICS AND BIOSIMILARS

MEDICINAL CHEMISTRY & PHARMACOLOGY Joint Euro-Global Summit on November 06-07, 2023　Paris, Franc

定本清美　関節リウマチ症例の握力、ピンチ力とペットボトル開封の関係　日本人間工学会第64回シンポジウム　2023年9月7日　千葉